

2024年1月11日

防衛大臣

木原 稔 様

辺野古・大浦湾の工事着手に抗議し、中止を求める要請

安保破棄中央実行委員会

事務局長 東森英男

東京都千代田区神田三崎町2-11-13 MMビルII

沖縄防衛局が昨日、沖縄県名護市の大浦湾で埋め立てに向けた工事を始めたことに強く抗議し、中止を求めます。

今回の工事の強行は、この間の沖縄県知事選挙や2019年実施の沖縄県民投票で表明された、新たな基地建設のための埋め立てを拒否するという民意を踏みにじるものであり、許されません。また、憲法で保障された地方自治体の権限を踏みにじる点でも大きな問題があります。

今回代執行される設計変更による工事には重大な問題があります。政府は2014年の工事着手以前から把握していた軟弱地盤の存在を隠ぺいし、既成事実形成のための工事を続け、2020年になって設計変更を申請しました。その軟弱地盤は水深90mにまで広がっていますが、現在の技術では水深70mまでしか改良できません。地質学の専門家からは工事中にも崩落する可能性が指摘されています。そのような状況を踏まえて沖縄県が、「災害防止に配慮しておらず合理性がない」と不承認にしたのは当然です。

政府が「普天間基地の返還」を打ち出してからすでに28年が経過し、政府の試算によっても新基地引き渡しまでに12年かかるとされており、政府の言う「一日も早い普天間基地の危険性除去」は実態を伴っていません。

さらに今回の工事に際して、2013年の埋め立て承認文書に記載されている実施設計についての事前協議や、沖縄県との間で全く話し合いが行なわれないうまま工事が行なわれていることも問題です。

以上により、私たちは貴職にたいし下記事項の実現を強く求めます。

1. 辺野古・大浦湾の埋め立てのための工事を中止すること。
2. 普天間基地の閉鎖撤去を求める立場で米国と交渉を行なうこと。
3. 基地問題の解決に向けて沖縄県との話し合いを行なうこと。

以上